

(参考資料) 令和7年度 「スポーツクライミングのまち 龍ヶ崎」実施報告



官民連携調整会議



教育・学習



プロモーション



産業振興



にぎわい創出



環境整備



KPIの進捗状況



令和8年度の実施計画





官民連携調整会議



教育・学習



プロモーション



産業振興



にぎわい創出



環境整備



KPIの進捗状況



令和8年度の取組





官民連携調整会議の設置

令和6年度に設置した基本構想策定審議会や基本構想策定過程で開催したワークショップに参加いただいた団体を中心に、産官学を巻き込んだ会議体を構築。

各部等の次長

流通経済大学

学校長会

商工会

観光物産協会

青年会議所

たつのこまちづくりパートナーズ

クラブ・ドラゴンズ

常陽銀行

関東鉄道

茨城県山岳連盟

新都市ライフホールディングス

スポーツビズ

アキオズカンパニー



- ・ 構成員の紹介
- ・ 事業の背景、目的の共有
- ・ 個別事業の実施方針の共有、意見交換
- ・ 調整会議、分科会の令和7年度の開催スケジュール案の提示

8月

調整会議

9月

分科会

10月

11月

調整会議

12月

分科会

令和8年1月

2月

分科会

3月

調整会議

- ・ 個別事業の進捗状況の共有、意見交換
(学校連携施策/他自治体視察/体験会開催/事業者向けワークショップ開催/プロモーションコンテンツ制作など)

- ・ 個別事業の実施内容の共有、意見交換
- ・ AKIYO's DREAM with RYUGASAKI、アレンジ企画イベントの開催結果の報告
- ・ 次年度の取組方針を提示

【教育・学習】

- ・ 学校連携施策案の方向性、進め方の共有
- ・ 定期的な体験、練習機会確保の意見交換
- ・ 学校における体験機会開催素案の提示

【プロモーション】

- ・ プロモーションコンテンツのイメージ共有
- ・ PR動画に組み込む場所、発信チャネルの意見交換
- ・ コンテンツデザイン、設置場所の意見交換

【教育・学習】

- ・ 11月開催の体験会の実施状況の共有
- ・ 他自治体の視察内容の報告
- ・ 定期的な体験、練習機会確保の案、方向性を提示

【プロモーション】

- ・ 前回のアナログ、デジタルのコンテンツについての意見交換内容の共有
- ・ 次年度以降のプロモーション方針の意見交換

【教育・学習】

- ・ 2月の大会、アレンジ企画の実施内容を報告
- ・ 体験機会の段階に応じて求められる設備の提示
- ・ 次年度以降の教育・学習の進め方を提案

【プロモーション】

- ・ 「クライミングまいりゅう」ロゴ活用実績の報告
- ・ プロモーションコンテンツの活用実績の報告
- ・ 次年度以降のプロモーション方針の提示



官民連携調整会議の開催

第1回

令和7年8月18日

【教育・学習】

- ・すべての児童生徒への体験機会の導入やコロケ形等をデザインしたホールドを作れるようであれば、図工や美術の授業での導入が考えられる。
- ・部活動の地域移行については、まだ課題が多く、まずは小学生の時期に体験機会を提供することで児童の関心を高めていった方がよいと思う。

【プロモーション】

- ・例えば市役所や多くの市民が集まる場所にクライミングウォールがあると普及につながると思う。

【産業振興】

- ・スポーツクライミングは、まだまだ認知が高くないスポーツなので、声掛けの徹底や発信を行い少しずつ仲間を増やしていくべきと考える。

【にぎわい創出】

- ・前回大会ではウォールのスケールに驚き、非常に楽しく観戦できた一方で、市内小中学生の観戦者が増えてほしいと感じた。
- ・ユースのトップ選手が集まり、この大会をきっかけにステップアップするという意義深さを感じた。
- ・今年度は、事前告知をしっかりと行った方がよい。

第2回

令和7年11月18日

【教育・学習】

- ・学校内での体験機会の確保は、早めに日程調整をして、学校の年間行事に入れる必要がある。
- ・市内の全子どもがスポーツクライミングに触れる環境をつくりつつ、継続して実施したい子どもに絞って環境を整えるというのも一案だと思う。
- ・興味を持ち継続意向を示すのは、小学校低学年程度までだと思うので、その点を踏まえて議論した方がよいと思う。

【にぎわい創出】

- ・今月開催される市産業祭での周知や他のイベントも周知の場として活用していくべきだと思う。

【環境整備】

- ・選手の練習機会を確保するのであれば施設は必須、クライミングの動作に触れる機会として肋木クライミングウォールを設置したが、競技者を目指して練習するような施設はないのが現状である。
- ・同じ施設でも、競技者とエントリーレベルが楽しめる方法はある。
- ・龍ヶ崎市や近隣市町村に民間ジムがないので、龍ヶ崎市に民間ジムを設置する意義はあると思う。

第3回

令和8年3月3日

【教育・学習】

- ・市内イベントとの連携が重要で、年間計画でできる限りウォール設置の機会を増やした方がよい。
- ・体験機会の場がニューライフアリーナ龍ヶ崎だけでなく、市の西側にもあると盛り上がるのではという声があった。
- ・障がいをお持ちの方も体験できる場もあるとよい。

【プロモーション】

- ・例えば、学生の通学時間帯に合わせたプロモーションの実施など、日常の中でこの取組を感じ取ることができればよいと感じた。
- ・大会ウォールを活用して実施した国内トップ選手の練習会風景を、選手がSNSに投稿し、プロモーション効果もあったと思う。

【産業振興】

- ・大会は市の特産品を知ってもらう良い機会でもあるので、大会前に特産物を事前に試して、情報発信することができればよいと感じた。

【にぎわい創出】

- ・昨年の実績を踏まえ、より多くの人を楽しめるようなコンテンツが増えたと思う。



分科会の開催

第1回

令和7年9月22日

【教育・学習】

- ・体験・学習機会の創出
 - *学校の授業としては肋木クライミングウォール程度でよいと思うが、高学年だと物足りない可能性もある。
 - *技術の向上を目指したい児童生徒の受け皿の検討は必要だと思う。
 - *校内へのウォール設置は、安全面などの観点を鑑みる必要がある。
- ・定期的な体験・練習のあり方
 - *指導者の確保について、日本スポーツ協会公認のコーチ資格取得を促すなどいかがか。
 - *部活動やクラブ運営は、指導者の熱意にも左右される。

【プロモーション】

- ・PR動画に組み込めるとよいコンテンツ案
 - *特産品:コロッケ、トマト、うなぎ…/施設:サプラ、駅、神社、商店街…/自然:たつのこやま、牛久沼、しだれ桜…/行事:撞舞、祇園祭、桜まつり…
- ・オブジェの設置場所案
 - *サプラ/市役所/駅/RINK/ニューライフアリーナ龍ヶ崎/市産業祭/森林公園/たつのこやま…
- ・横断幕、のぼりの設置場所案
 - *駅/サプラ/歩道橋/商店街/RINK/ニューライフアリーナ龍ヶ崎/成人式などの市民行事…

第2回

令和7年12月8日

【教育・学習】

- ・定期的な体験・練習のあり方
 - *スポーツクライミングの活動団体を組成するのであれば、部活動ではなく地域移行クラブなどの方がよいと思う。
 - *スタートコーチの資格であれば取得難易度が低いと思うので、資格取得のサポートをするなど、大人が競技への理解を深めることが重要だと思う。

【プロモーション】

- ・スポーツクライミングを知っているが、体験したことがない層へのアプローチ
 - *大人の体験機会として企業対抗戦、スポーツ少年団の対抗戦の実施や、クライミングの動作までいかなくとも例えばぶら下がり時間を競うなど、市の幅広いイベントでの開催ができるとよい。
 - *上に登るのではなく横に動く体験であれば落ちる不安などが払しょくされ心理的ハードルは下がるのではないかな。
- ・応援する機運醸成に向けて
 - *公園遊具や電車のつり革にホールド用いることにより、日常に溶け込ませる工夫が効果的だと思う。
 - *ファンクラブ、体育祭種目、学校でクリアファイルを配るなど、多様な接点をつくるのがよいと思う。

第3回

令和8年2月16日

【教育・学習】

- ・学校連携の実施計画
 - *体験機会の実施に先立ち、教員に対してこの取組の理解を深めてもらうために、講習会を開催できるとよい。
 - *安全上のイメージからクライミングは始める上でのハードルが高いと思う。指導者がいるとなれば体験のハードルは下がるため、まずは大人にスポーツクライミングというスポーツを理解してもらうとよいのではないかな。ターゲットは生徒だが、教育という広い視点で考える場合、大人の理解を得ることは重要になる。

【プロモーション】

- ・次年度以降のプロモーション:知るコンテンツ
 - *国道や牛久沼周辺の目立つ場所でのイベントやPRがよいのではないかな。
 - *スタンプラリーなど周遊する仕掛けづくりをすれば事業者も入り込みやすいと思う。
- ・次年度以降のプロモーション:体験コンテンツ
 - *頻度が大切だと思うので、例えば簡易ウォールを期間限定で市内各所を回すなど市民が情報に触れる回数を増やせるとよい。
 - *市産業祭のほか、桜まつりやスポーツ・レクリエーションまつりなど、にぎわいイベントにウォールを持ち込めるとよい。



官民連携調整会議



教育・学習



プロモーション



産業振興



にぎわい創出



環境整備



KPIの進捗状況



令和8年度の取組



スポーツクライミングが地域の魅力となり、
誇りと活力にあふれるまち龍ヶ崎へ



体験機会の創出①

令和7年11月8日ニューライフアリーナ龍ヶ崎サブアリーナにて、野口さんをはじめとしたトップクライマー3名を招き、親子ボルダリング体験会を開催。

- ・初めて市民スポーツ・レクリエーションまつりで孫が体験し、とても楽しかったというので今回参加しました。せっかくオリンピックに出た野口さんがいらっしゃるのでもこれからぜひ沢山の機会をいただけたらと思います。
- ・こういう機会があることによって、こどもたちが身近に体験できることはとてもよいと思います。
- ・貴重な体験をさせていただきありがとうございました。親子でとても楽しい時間を過ごすことができました。また機会がありましたらぜひ参加したいと思います。
- ・ゲストクライマーが豪華でサインもいただけ、とてもよい記念になりました。
- ・龍ヶ崎市の特徴として推進するのはすごくよいと思います。
- ・市の魅力になってよいと思います。
- ・初めての体験で楽しかったです。クライミングのルール、難しさが分かってよかったです。こどもも楽しめるスポーツだと分かりよかったです。
- ・貴重な体験ありがとうございました。こどもも続けたいと言っているので色々と参加したいと思います。

スポーツクライミングのまち龍ヶ崎
ゲストクライマーと一緒に新しいことに挑戦しよう！

親子でボルダリング体験

参加費 無料
ボルダリング初心者の親子 15 組を募集します！

2025 11月8日(土)
10:00~11:00
11:30~12:30

ゲストクライマー
野口 啓代さん 渡部 桂太さん 通谷 律さん
元日本代表 2015~2022 年 ボルダー日本代表 2023 ~ 2024 年 ボルダー日本代表

会場：ニューライフアリーナ龍ヶ崎 龍ヶ崎ふるさと大使



保護者	25
小1	9
小2	6
小3	9
小4	3
未回答	1



体験機会の創出②

令和7年11月23日市産業祭いがっぺ市の開催に合わせ、体験ウォールを設置。

主に未就学児や小学生が絶え間なくボルダリング体験を行い、なかには大人もあり、推計300人程度が体験ウォールを楽しんでいた。また、当日の運営では、流通経済大学生のクライマー2名が指導などを行い、クライミング経験者とのつながりをつくる機会にもなった。





肋木クライミングウォールの設置①

令和7年9月八原小学校、馴馬台小学校、川原代小学校の肋木に簡易クライミングウォールを設置。体育のサーキットトレーニングなどで活用。

川原代小学校の授業風景



八原小学校のホームページ

肋木クライミングウォールが設置されました 9月4日（木曜日）

今週、龍ヶ崎市から体育館にクライミングウォールを設置していただきました。体育館にある肋木に掛ける方法で設置されました。登り方やコースを設定するなど工夫すればするほど難易度が増していきます。体育の体づくり運動や休み時間などで活用ながら体力向上を目指していきます。ありがとうございました。



たつのこアクション



トップ > 「登れて、嬉しい！」 小学校の体育でクライミングの授業がスタート！

小学生

2025.9.11

「登れて、嬉しい！」 小学校の体育でクライミングの授業がスタート！

まちのきこと 体験する 学ぶ



2025年9月5日、市立川原代小学校で新たに設置された肋木クライミングウォールを活用した体育の授業が行われました。

この授業は、「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の取り組みの一環で、小学生にクライミングに親しんでもらおうと企画されたものです。

子どもたちはそれぞれが登り方を考えながら、壁に斬っていました。

また、登っている友だちに向けて「ガンバッ！」と声をかけている姿も見られました。

参加した3年生の男子は「登れた時は嬉しくて、またやりたくなる」と語り、また3年生の女子は「はじめてやったけど楽しい！ニューライフアリーナにある壁にも登ってみたい」とさらに挑戦したいという気持ちを抱いたようです。

授業終了後の休み時間に入っても、壁に向き合う子どもたちからは「新しい遊具ができて嬉しい」との声も。

市では今年に入り、川原代小、八原小、馴馬台小の3校の体育館に肋木クライミングウォールを設置しています。

手や腕の力だけでなく、1半身全体や下半身を1手に使い、動きも筋力やバランス感覚を養うことや、どうやって登っていくかを自ら考えることにより、思考力や集中力を養うことができるものクライミングの醍醐味です。

真新しい遊具は、子どもたちの健康増進と登りきるといふ達成感と自信へと繋がります。



肋木クライミングウォールの設置②

令和7年11月10日肋木クライミングウォール設置校ヒアリング

活用状況、児童の反応

【八原小】

- ・安全管理として先生1人が見守りながら、昼休みの体育館開放の時間に6年生を対象に開放している。
- ・身長が高い児童はすぐ天井に届くが、横移動や使えるホールドの色を限定することで、一定楽しんでくれた。
- ・こどもたち同士で教え合う姿も見られた。

【駒馬台小】

- ・クライミング経験者の教諭が6年生の各クラスの体育授業で教えた。
- ・1名が登り、次に登る児童がどうやって登るか考えるという順序で運用した。
- ・専門家を呼んで教員向け研修を開催したり、マニュアルを用意するといった、指導者の質の担保が必要だと感じた。

【川原代小】

- ・全学年対象に授業で取り入れた。サーキットトレーニングの一部にクライミングを入れ、3・4年生は2コマ、それ以外の学年は1コマの授業で取り扱い、児童の反応は総じてよかった。
- ・授業では、リズムジャンプ、けんけんぱ、ステージジャンプ、クライミングの4セッションを4分ごとにローテーションし、初回は自由に登り、2回目は次に登る児童が指定したホールドを使って登ってもらった。
- ・設置直後に興味を持っていた児童は多かったが、今は徐々に興味が薄れている。
- ・昼休みにウォールを開放しており、1日5・6名が体験している。体験者は、中学年>低学年>高学年の順が多い。

活用促進のための今後の工夫

【八原小】

- ・学校で体験会を行うことが普及につながると思う。体育教員よりもクライマーが指導する方が、児童からの憧れも集めることができ、効果が高まるだろう。
- ・肋木ウォールは現在の3校に限定せず、巡回してもよいと感じた。期間限定の方が児童も体験するモチベーションが高まるのではないかな。

【駒馬台小】

- ・こどもたちの身長でどこまでできるかは大事な観点で、小学生向けの課題は専門家監修で作れるとよいと思う。特に、6年生になると低い位置を横に移動する運動が効果的だと思う。
- ・クライミングジムのように、自分で考えた課題がファイリングされていて、他の児童が挑戦し、登れたらサインするような運用にすれば児童の関心を集められるかもしれない。
- ・児童同士で登る課題を考え合い、実践させてみるという授業は課題解決の文脈で面白いと思う。

【川原代小】

- ・縄跳びのような検定表があれば、もっと児童は意欲的に取り組むと思う。年度初めにクライミングを体験してもらい、以降は検定表を用いて個人が休み時間に課題に挑戦する流れをつくることできれば、継続的な体験につながる可能性がある。
- ・教える側としては、どのような課題を設定できるのか知りたく、研修やマニュアルがあるとよい。



他自治体の視察

鉾田市：とくしゅくの杜スポーツクライミングセンター

学校連携

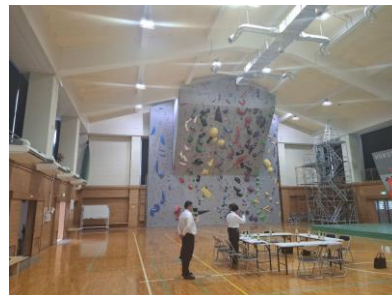
- ・第74回国体で鉾田市が山岳競技の開催場所となったことから取組を推進。
- ・市内全小学校にウォールを設置しており、コロナ禍以前は休み時間や体育の授業でサーキットトレーニングとして活用されていたが、現在は市内1校でのクラブ活動のみとなっている。
- ・県山岳連盟と各小学校での日程調整の上、年1回、市内全小学校6年生を対象にボルダー、リードを体験。スポーツクライミングが学習指導要領にないため、各校にて体育授業や学校行事に割り当てている。

民間組織

- ・競技の普及促進のため、鉾田市生涯学習館の開館に併せて、県山岳連盟メンバー指導のもと「鉾田市スポーツクライミングクラブ」を発足。
- ・市との連携について、練習日の施設優先予約、施設利用料の減免がある。

施設運営

- ・施設の運営経費について、収支ギャップが生じている。歳出の7割以上を占める委託費は、主にシルバー人材への夜間の施設管理の委託。
- ・セットの入れ替えについて、大会やイベントを頻度高く開催することで、委託業務においてセットを変えられるように工夫(年4回程度)。ホールドの取り外し、洗浄は直営で、市職員の負担は大きい。



港区：高松中学校

導入経緯

教育委員会として、こどもの体力・運動能力向上を目指す中、特に握力の数値が全国平均を下回っている課題の対応策として、区内全小学校にボルダリングウォールを設置し、他中学校に先行して、一部の中学校にも導入。

活用状況

- ・活用場面は体育授業のみで、実施頻度はクラスごとに年2回程度。
- ・教員が生徒にルールや登り方を指導し、ウォール各面の安全管理のため、指導員含め2名を配置している。
- ・教員はルールや登り方の指導のほか、ハーネスの付け方を学ぶ。
- ・設置後からルートは今のところ変更しておらず、維持管理等のチェックは教育委員会にて実施。
- ・地域団体、区NPO法人にて不定期にボルダリング教室が開催されており、都度場所を貸している。

所感

- ・男女問わず積極的に登る生徒が多い印象。
- ・小学校への導入後について、教室に握力計を設置しており、児童から測定値が上がったとの声もあった。



高松中学校



高輪台小学校



教育機関との連携調整

【理想像】 龍ヶ崎市に住むすべてのこどもが身近にスポーツクライミングに触れる環境があり、実際に体験する機会を有している。

1stステップ (在学中に1回体験)

- ・学校の授業を活用して、市内のこどもたちが最低1回は体験できる機会を整える。
- ・移動式ウォールの学校持込み又はニューライフアリーナ龍ヶ崎に移動する運用が全小中学校で採られている。
- ・市内の保育所等に簡易的なウォールが存在し、興味のあるこどもが遊べる環境をつくる。

2ndステップ (年に1回体験)

- ・学校の授業に導入し、市内のこどもたちが定期的に体験できる機会や指導環境を整える。
- ・授業外での児童生徒の利用促進に向けた、児童生徒用の登り方マニュアルを展開する。
- ・移動式ウォールの学校持込み又はニューライフアリーナ龍ヶ崎に移動する運用を、全小中学校が持続している。

3rdステップ (通年で体験)

- ・興味を持ったこどもたちが、定期的に専門家から指導を受けることができる。
- ・体験しないこどもでも、道徳や図工、美術の時間などを通してスポーツクライミングを感じることができる。
- ・児童生徒の身近な環境で通年でスポーツクライミングを体験できる環境をつくる。

ニューライフアリーナ龍ヶ崎に移動して体験会開催(令和8年度実施)



- ・移動・体験ともに指導員側で人材を用意
- ・先生は付き添い



施設へバス移動



メリット

- ・多くのルート課題が体験できる。
- ・1、2回体験したことがある児童生徒でも十分に楽しむことができる。

デメリット

- ・児童生徒の誘導にあたる人的確保、車両確保が学校ごとに発生する。
- ・移動時間込みとなるため、2～3コマ分の授業時間を確保する必要がある。

学校へウォールを持ち込んで体験会開催(令和8年度実施)

置き場所
へ移動

- ・指導員が学校訪問
- ・対象クラスが体験する間はウォール据え置き

メリット

- ・目指す姿に近い環境で開催でき、今後発生しうる課題を把握しやすい。
- ・移動に係る人的確保、車両確保の手間がない。

デメリット

- ・ウォールを一定期間置けるスペースが必要になる。
- ・休み時間などでの利用ルールや安全管理を定める必要がある。
- ・ウォール設置の人員、期間が要る。

城西中2年生

中根台中1年生

龍ヶ崎西小5・6年生

川原代小1～6年生

八原小5・6年生

久保台小1～6年生

長山小1～6年生

松葉小5・6年生

馴馬台小5年生

長山中

龍ヶ崎小



官民連携調整会議



教育・学習



プロモーション



産業振興



にぎわい創出



環境整備



KPIの進捗状況



令和8年度の取組





「クライミングまいりゅう」ロゴの活用

市公式マスコットキャラクター「まいりゅう」とスポーツクライミングをかけ合わせ、プロモーションコンテンツを制作する上でワンポイントとなる「クライミングまいりゅう」ロゴを制作。

アナログ・デジタルコンテンツやイベントでの表示物、名刺のデザインなどに取り入れ、「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の取組を視覚的にPRするアイテムとして活用。

RYUGASAKI
CITY OF
SPORT CLIMBING



スポーツクライミングのまち龍ヶ崎





アナログコンテンツの制作

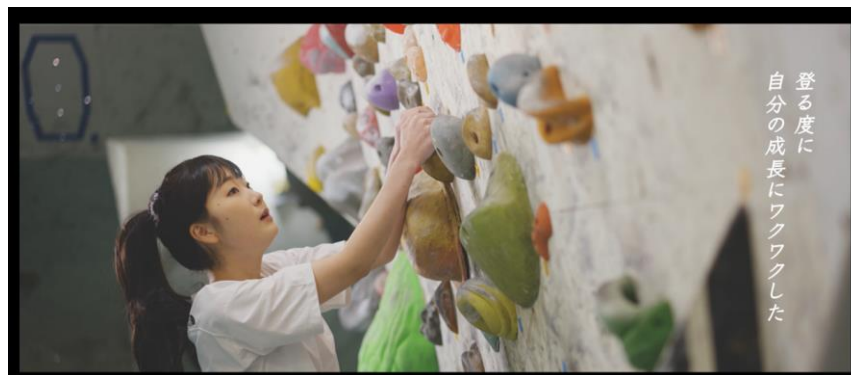
「クライミングまいりゅう」とボルダリングウォールを模したデザイン・実際のホールドを組み合わせたオブジェはインパクトがあり、「AKIYO's DREAM with RYUGASAKI」の会場入り口に設置した際には、記念写真を撮っている風景が見て取れ、フォトスポットとしての役割になっていたほか、横断幕やのぼりの設置により、大会の会場に来場した方々に対して、競技という側面だけでなく、龍ヶ崎市とスポーツクライミングを結びつけるきっかけとなった。



デジタルコンテンツの制作

スポーツクライミングに打ち込む高校生を描いた青春クライミングムービーをストーリーイメージに、PR動画を制作。

「AKIYO's DREAM with RYUGASAKI」の会場入り口でモニターに映し出したほか、SNSや市外のイベントにおける市PRブースで活用。





プロモーションの方針

令和7年度のプロモーション基盤を継続的に活用しながら、「知る」「体験する」コンテンツで、「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の認知度の向上、体験者・参画事業者の増加を図る。

「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」を“知る”コンテンツの発信

R7制作コンテンツの継続活用(横断幕・のぼり・オブジェ・動画の露出)

- ・令和7年度に制作した横断幕、のぼり、オブジェを活用するほか、動画を市内外の多くの人の目に触れさせる。
- ・「AKIYO's DREAM with RYUGASAKI」の動画を市内外に発信することで、大会や本市に対する関心度を向上させる。

各種媒体を活用した情報発信

- ・市内クライマーの活躍紹介、各アクションの取組進捗状況などを市公式HP、スポーツ推進課SNSなどで発信する。特に、SNSについては拡散力を生かすため積極的に活用する。
- ・市外在住者向けの情報発信サイトなどの媒体において、「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の取組を紹介する。

民間事業者への情報提供及びロゴ活用の協力依頼

- ・「クライミングまいりゅう」ロゴなどを一般の方も利用できるようにする仕組みづくりをし、協力企業は市HPで紹介するなど、事業者メリットを検討する。

スポーツクライミングを“体験する”コンテンツの機会づくり

市内イベントと連携した体験機会の拡大・拡充

- ・市内で開催される季節イベントやスポーツイベントと連携し、ウォールを設置する。
- ・イベントのにぎわいの中で気軽に体験できる仕組みをつくり、普段スポーツクライミングに馴染みのない方や親子連れの体験を促す。

スポーツクライミング体験への企業巻き込み

- ・市内の企業や団体と連携し、従業員やその家族を対象としたクライミング体験会や交流イベントを開催する。
- ・社員や家族と一緒に体験できる場を提供しつつ、スポーツクライミングにちなんだノベルティコンテンツの配布などを行う。

ノベルティコンテンツなどを活用した普及・PR連携

- ・取組のロゴやクライミングをモチーフにした商品、ノベルティ、グッズなどを制作し、市内飲食店や商店、イベント会場で配布、販売する。



官民連携調整会議



教育・学習



プロモーション



産業振興



にぎわい創出



環境整備



KPIの進捗状況



令和8年度の取組



スポーツクライミングが地域の魅力となり、
誇りと活力にあふれるまち龍ヶ崎へ



市内事業者向けワークショップの開催

令和7年11月5日RINKコミュニティホールで開催。

【スポーツクライミングに関連した事業アイデア】

プロモーションにおける連携

商品パッケージのデザインにロゴや標語を挿入

市内の観光コンテンツと連携した周遊促進企画

トップクライマーが実際に食べてPR

期間限定の連携

大会後に参加者が市内施設に流れていく導線が作れるとよい

短期イベントでの限定商品制作

年間を通じた商品作りはハードルが高い

新規商品／サービスの開発

必勝を祈願するお守りグッズはスポーツと親和性が高い

カラビナやチョーク汚れに適した洗剤等

企業の店舗スペース等の活用

【事業アイデアを実現するために必要な支援】

金銭的支援

市から助成できる仕組みを作れるとよい

プロモーション支援

統一のパッケージデザインがあった方がよい

イベント出店の際の販売スタッフサポート

プロモーション媒体を支給してもらいたい

人が集まるイベントを平日含め複数回開催

小規模でも市内でイベントを増やす

事業者への普及

そもそも、事業を営む大人世代がスポーツクライミングの魅力を把握していないため、魅力に気づくための機会が必要

～スポーツクライミングのまち龍ヶ崎～ 事業者向けワークショップのご案内

11月5日(水) 15:00～16:30

◎龍ヶ崎市役所保健福祉課3F多世代交流センター「RINK」コミュニティホールA・B

龍ヶ崎市では、「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」として、スポーツクライミングが地域の魅力となり、誇りと活力にあふれるまちを目指しています。

今後、スポーツクライミングにまつわるコラボ商品・サービスを市民／市内事業者の皆様と作りたいと考えております。そこでまずは…

スポーツクライミングについて
より深く知っていただける
ワークショップを開催いたします

回答はこちら
※10月31日(金)まで

↓QRコード↓



↓リンク↓
<https://forms.office.com/e/HnYzHG3gHg>

～スポーツクライミングワークショップの概要～

当日の流れ

- | 全体説明 | ワークショップ① | ワークショップ② |
|--|--|---|
| ✓ スポーツクライミングとは何か？から、市場性、関連商品、龍ヶ崎市での取組内容と成果をご説明 | ✓ 自身や地元で有する事業とスポーツクライミングのコラボ商品／サービスをアイデア出し | ✓ ワークショップ①で挙げたアイデアが、事業として立ち上がり、継続されるために必要な支援を協議 |

コラボ商品／サービスの例

- | | |
|--|--|
| 
スポーツクライミング市場を踏まえた商品／サービス例) スポーツクライマーが求める機能を加えたウェア、靴下 | 
既存商品にスポーツクライミングの要素を入れ込んだ商品／サービス例) スポーツクライミングのホールドに似せたコロッケ |
|--|--|

どなたでも参加可能！
スポーツクライミングと関係薄そう...と思う事業者様も大歓迎

コラボのアイデアがなくてもOK
まずスポーツクライミングを知ってから、当日一緒に考えましょう！

コラボ商品／サービスは本事業でもPR
開発した商品／サービスは市の発信媒体／機会等でPRできる！

※応募者が多数あった際は先着順で参加者を決定する可能性があります。あらかじめご了承ください。

お問合せ先

委託事業者：デロイト・トーマツコンサルティング合同会社 塩島 (yashiojima@tohmatu.co.jp)
担当課：龍ヶ崎市役所健康スポーツ部スポーツ推進課 (sports@city.ryugasaki.lg.jp)



スポーツクライミングにちなんだ商品開発

市内事業者「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の取組が少しずつ認知され、一部商品開発につながったほか、今後活用を図っていくキャラクター「オチナイ」くんが誕生。今後は、「クライミングまいりゅう」ロゴを市民や事業者の方が活用できる運用とする、サービスや商品開発などの事業者ニーズを発掘する、事業者支援などを立案していく、といった取組を通して産業分野への波及を広げていく。

サウナハット

Tシャツ

ホールドを模したスコーン

龍ヶ崎市SDGsヒーロー「オチナイ」





関連サービス、商品開発などの促進・支援

市内事業者が自主的にこの取組に参画し、スポーツクライミングに関連したサービスや商品開発などにつなげるため、事業者支援策を検討。

市内事業者に対する支援を実施するとともに、継続的に市内事業者からのサービス・商品開発などが生まれるような支援のあり方を検討

開発ニーズを有する事業者の発掘

- ・令和7年度に開催した事業者向けワークショップに参加いただいた事業者をはじめ、スポーツクライミングに関心度や親和性を見いだせる事業者を発掘、打診

開発支援

- ・事業者と協議しながら支援手法を模索
 例) *スポーツクライミング関連事業者とのマッチング
 *選手とのヒアリング
 *パッケージデザインなどに用いることができる素材の提供 など

情報発信

- ・関連サービス、商品開発などについて、市広報媒体による発信はもとより、SNSの活用や市各種イベントにおけるPRのほか、事業者、市内店舗、トップ選手などと連携して情報を発信

関連サービス・商品のプロモーション支援

- ・関連サービスや商品などを開発することにメリットを感じてもらうため、事業者の名称や取組をPRできるような手法を検討する。
- ・市で開催する大会やイベントなども販路、サービスや商品の認知の機会となるよう積極的なブース出店を試みる。
- ・将来的にふるさと納税の返礼品として取り扱うことも目指し、販路の拡大を図る。

事業者に向けたスポーツクライミング関連の情報発信

- ・スポーツクライミングに関連するサービスや商品などが継続的に市内から生まれるよう、スポーツクライミングに少しでも関心を有する事業者に対して、関連サービスや商品の開発実績、スポーツクライミング関連の情報を発信していく。



官民連携調整会議



教育・学習



プロモーション



産業振興



にぎわい創出



環境整備



KPIの進捗状況



令和8年度 of 取組



スポーツクライミングが地域の魅力となり、
誇りと活力にあふれるまち龍ヶ崎へ



市内エントリー者向け練習会の開催

令和7年12月25日たつのこキッズ練習会を開催。令和8年2月7・8日の「AKIYO's DREAM with RYUGASAKI」のおよそ1月前、大会の市内エントリー者を対象に、野口さんの課題セット・指導のもと、市内競技者のモチベーション向上・スキルアップを目的に実施。的確なアドバイスをいただきながら、練習会の中で成長するこどもたちの姿を観ることができた。





AKIYO's DREAM with RYUGASAKI①

令和8年2月7・8日に開催した大会に推計1,459人が来場し、競技だけではなくプログラムも相まって、昨年度を上回る盛り上がりを見せた。



出場者の約半数が初出場。北海道から沖縄までの全国各地やアジア圏から競技者が本市に来訪した。

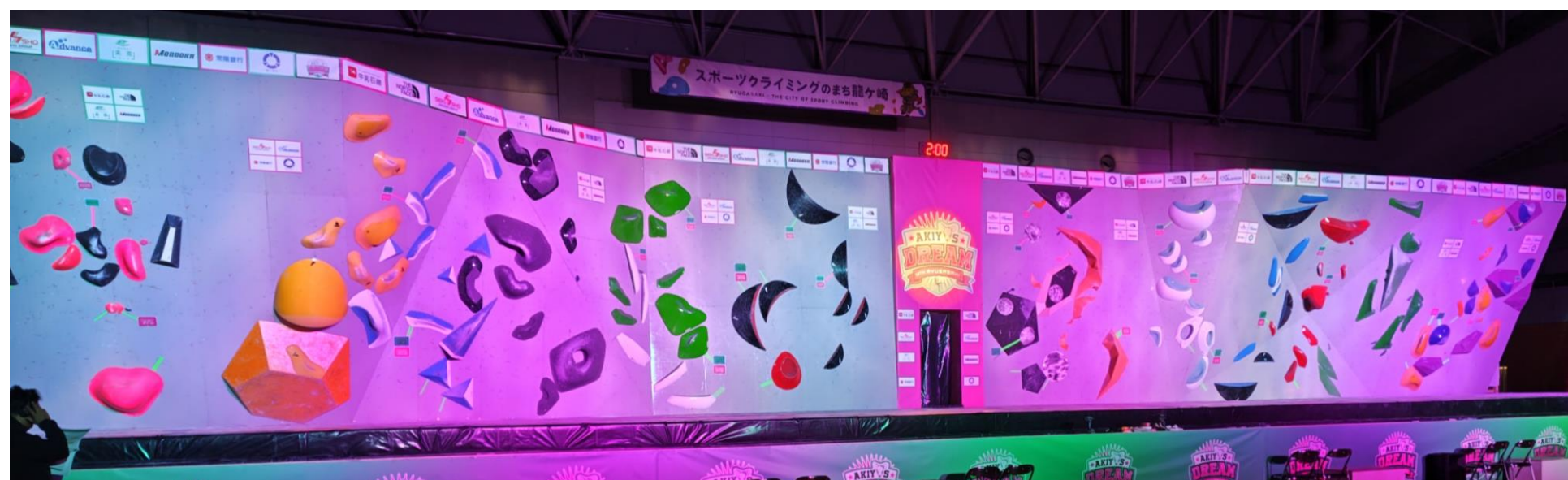
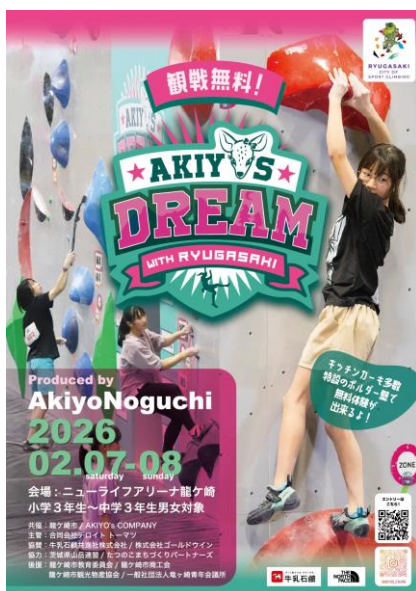
カテゴリー別にみると、小学生の出場者数は令和6年度のキックオフイベントより増加した一方で、中学生の出場者数は減少した結果となった。

R7出場者数(カテゴリー別)

	男子	女子	計
小学3～4年生	30	27	57
小学5～6年生	38	57	95
中学1年生	7	15	22
中学2～3年生	14	18	32
総計	89	117	206

R6出場者数(カテゴリー別)

	男子	女子	計
小学3～4年生	30	36	66
小学5～6年生	30	42	72
中学1年生	16	23	39
中学2～3年生	26	19	45
総計	102	120	222

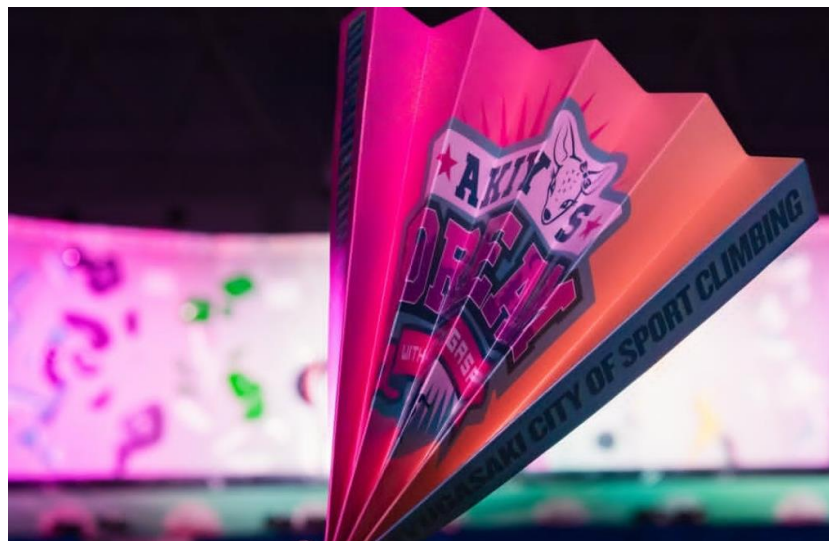




AKIYO's DREAM with RYUGASAKI②

二度目の開催となった令和7年度大会では、選手を応援するハリセン、来場者向け体験ウォール、ゲストクライマーをフレームデザインに用いたフォトスナップ、龍ヶ崎中吹奏楽部によるオープニングセレモニーの演奏、ゲストクライマーによるデモンストレーション、「龍ヶ崎市SDGsヒーロー」お披露目会といった新たなプログラムを企画。

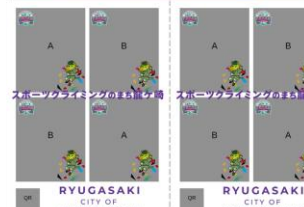
ハリセン



体験ウォール



フォトスナップ





AKIYO's DREAM with RYUGASAKI③

来場者の声

今まで参加した大会の中でダントツ1位と言える豪華なセット、会場、演出でした。

昨年よりも色々な面で充実していた(応援グッズ、プリクラ、体験ウォール…)

大人や年配の方向けの体験会、レッスン、観戦講座があってもいいように感じる。

こどもに根付いているので、その他の年齢層をいかに取り込めるかが鍵だと思う。

スポーツクライミングの認知度は高くなってきており、よい取組だと思う。

まずは練習できるジムが身近にあるのが一番だと思う。

県外からでも利用しやすいクライミングジムがあるといいなと思う。

市内はもちろん、県内外からも参加できる企画をどんどんやってほしい。

調整会議メンバーコメント

特に大会初日は昨年度を超える来場者数で、関連イベントも含めた計4日間、充実した大会、イベントになったと思う。

体験ウォールに多くの方がチャレンジしており、制作したのぼりもとてもよかった。「スポーツクライミングのまち」として一定定着が見えてきたのではないかな。

事業者として従業員やご家族も含めて声をかけ、多くの方に参加いただいた。参加した子どもたちがその後のラリーイベントにも興味を示し、後日兄弟を連れて行くようなこともあり、こういったことの積み重ねで、いずれ選手が出てくるのではないかなと思った。また、大会の際に年配の従業員も体験ウォールにチャレンジしたが全く登れず、こどもから教わる場面もあり、貴重な体験機会だった。

オープニングセレモニー



サイン会



ゲストクライマーデモンストレーション





にぎわい創出

アレンジ企画イベント①

大会後、大会環境を生かして幅広い層の方が楽しめるイベントを開催。

「AKIYO's DREAM with RYUGASAKI」
の余韻を楽しむ付加価値イベント

2/10：日本男子トップ選手シミュレーションコンペ

「AKIYO's DREAM with RYUGASAKI」の前週に行われた国内最高峰の大会であるボルダージャパンカップにおいて、決勝に進出したトップ選手をメインに、8名の実績豊富なトップ選手による、実際の大会さながらの練習会を行い、トップ選手の競技レベルの凄さを味わう機会を提供

2/11：ボルダリング体験ラリーイベント

サブアリーナに常設のウォール、大会アップウォール、大会時体験ウォールを活用し、市内外問わずボルダリングを無料で体験できるイベントを開催

2/10-11：シミュレーションコンペ課題チャレンジ

日本男子トップ選手が競技をしたシミュレーションコンペの課題をそのまま残し、一般の方がチャレンジする企画で、トップ選手の実力を肌で感じる機会を提供

～スポーツクライミングのまち龍ヶ崎～
2/10,11「AKIYO's DREAM with RYUGASAKI」
アレンジ企画イベント開催のご案内

2/7,8にニューライフアリーナ龍ヶ崎メインアリーナで行われるスポーツクライミングのユース大会「AKIYO's DREAM with RYUGASAKI」。大会時に特設で作られるクライミングウォールを活用して、大会後も多くの方に楽しんでもいただけるイベントを2/10,11に開催いたします！



2/10(火)
日本男子トップ選手のシミュレーションコンペ
@ニューライフアリーナ龍ヶ崎メインアリーナ

✓開催概要

- 「AKIYO's DREAM with RYUGASAKI」の大会ウォールを使い、世界で活躍する日本ボルダー界のトップ選手たちが公式大会さながらの環境で競技に挑みます！
- トップ選手の迫力を目の前で体感できるとても貴重な機会です(観覧無料)！

✓スケジュール(予定)

8:30 選手会場入り・アップ開始
10:30 準決勝開始
12:00 準決勝終了 ～セットチェンジ～
14:00 決勝開始
15:30 決勝終了 ～一般開放～

✓参加選手

龍ヶ崎市にゆかりのある橋崎智亜選手を筆頭に、ボルダワールドカップという世界の舞台や国内最高峰の大会であるボルダージャパンカップで活躍している選手らが参加する予定です。



橋崎智亜選手

2/11(水・祝)
ボルダリング体験ラリーイベント
@ニューライフアリーナ龍ヶ崎メインアリーナ・サブアリーナ

✓開催概要

- ニューライフアリーナ龍ヶ崎のサブアリーナに常設しているボルダリングウォールをはじめ、3つのウォールを用意し、どなたでもチャレンジできる体験ラリーイベントを開催します！
- ご来場の際は、館内履きをご持参ください(体験無料)。

✓体験の流れ

10:00 ラリーイベント開始(いつ来てもOK!)
受付でラリーカードをもらい、3つのウォールの様々な課題にチャレンジ、1課題ごとにチャレンジしたら獲得できるシールを集め、景品の抽選へ(景品はなくなり次第終了となります。)!
15:00 ラリーイベント終了
※ 先着順で参加費をご用意する予定です。

✓当日の体験ウォール

 サブアリーナ常設ウォール
 特設ウォール
 大会用アップウォール

2/10(火)・11(水・祝)
シミュレーションコンペ課題チャレンジ
@ニューライフアリーナ龍ヶ崎メインアリーナ

トップ選手が競技したウォールを一般開放！
この機会にぜひチャレンジして、トップ選手の凄さを肌で感じてみてください！
【2/10(火)17:00～20:00/2/11(水・祝)10:00～18:00】
※ 市内に在住、在勤、在学の方は無料、左記以外の方は1,000円(高校生以下500円)

お問合せ先 龍ヶ崎市民健康スポーツ推進課 (sports@city.ryugasaki.lg.jp)

トップ選手シミュレーションコンペ



トップ選手の競技をまじかに見つめる市内小学生





アレンジ企画イベント②

ボルダリングラリー体験参加者数

市内	127	未就学児	23
市外	35	小学生	55
計	162	中学生	8
		高校生・大学生	2
		社会人	73
		計(1人未回答)	161

シミュレーションコンペ課題参加者数

市内(在勤在学含む。)	98	未就学児	10
市外	18	小学生	53
計	116	中学生	7
		高校生・大学生	4
		社会人	41
		計(1人未回答)	115



もっといろんな人にやってもらいたい／楽しい企画をありがとうございます／今後も積極的に参加、応援していきます／取組を進めてクライミングができる場所が増えたら嬉しい／イベントをたくさんやってほしい／身近にできる場所が増えると嬉しい／子どもが楽しんでくれてよかった／設備が整っていけばよいと思う／市を代表する選手、頑張っている友達がいることで身近にスポーツクライミングを感じることができてとてもよいと思う

常設ウォール



大会時体験ウォール



大会アップウォール



大会ウォール(トップ選手競技課題)





官民連携調整会議



教育・学習



プロモーション



産業振興



にぎわい創出



環境整備



KPIの進捗状況



令和8年度の実施計画



スポーツクライミングが地域の魅力となり、
誇りと活力にあふれるまち龍ヶ崎へ



ふるさとと納税制度の活用

- ・ ふるさと納税
令和7年9月から活用：3,504,000円（令和7年度実績）
- ・ GCF（ガバメントクラウドファンディング）
令和8年1月5日から3月31日まで実施：1,060,000円

特 選べる使い道



1. 未来を担う子どもたちのための事業

- ◆子育て支援策の充実
- ◆魅力ある学校・地域づくり
- ◆教育施設の充実
- ◆子どもたちの安心・安全の確保
- ◆各種交流事業の実施



4. 豊かな自然と地域文化を守り、はぐくみ、及び次代に受け継ぐための事業

- ◆牛久沼の環境保全
- ◆撞舞をはじめとする伝統芸能の伝承
- ◆森林の保全



「その他市長が必要と認めるもの」の中に「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の取組を位置づけ。

- ◆牛久沼の有効活用
- ◆市民協働事業の推進
- ◆新たな企業誘致
- ◆起業家の育成



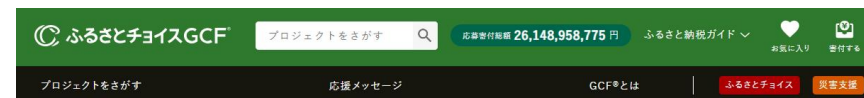
3. 市民誰もが健康で安心して暮らせる環境を育てるための事業

- ◆福祉の充実
- ◆医療体制の確保
- ◆災害に強いまちづくり
- ◆防犯対策の強化
- ◆公共交通体系の充実
- ◆身近な商業の充実



6. 具体的事業「スポーツライミングのまち」を推進する事業に活用

龍ヶ崎市にとって「スポーツライミング」は、東京オリンピック2020銅メダリストの本市出身の野口啓代さん、東京オリンピック2020・パリ2024オリンピックに出場した本市在住の檜崎智亜さんの活躍により、市民の関心や注目度が高いスポーツです。
パリ2024オリンピックを契機とした機運の高まりを絶好の機会と捉え、人材に恵まれた環境を有し、優位性や独自性を発揮できるスポーツライミングを活かした施策展開を図り、様々な分野に好循環を創出するとともに、地域課題の解決につなげます。



TOP > 過去実績 > 「一手ずつが、まちを変える」茨城県龍ヶ崎市のスポーツライミングを基盤としたまちづくりプロジェクト

「一手ずつが、まちを変える」茨城県龍ヶ崎市のスポーツライミングを基盤としたまちづくりプロジェクト

カテゴリ：まちづくり



寄付金額	1,060,000円
目標金額	1,000,000円
達成率	106%
支援人数	34人
終了まで	受付終了
📍 茨城県龍ヶ崎市（いばらきけん りゅうがさきし）	
❤️ お気に入り	
このプロジェクトは終了しました	



地域おこし協力隊の受入準備

スポーツクライミングに知見を有する、
あるいは興味のある人材や地域の活性化
に資する人材を市外から誘致する。

業務概要

- ・スポーツクライミングの普及促進に向けた活動の企画、実行
- ・「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」のプロモーション、SNS発信
- ・スポーツクライミングと地域の名物やグルメなどをかけ合わせた商品の提案
- ・「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の取組の推進、地域の活性化に資する活動

4/1募集開始

6/1募集〆切

協力隊として採用可とした場合、具体的な業務内容や勤務日数などをすり合わせ、双方の合意が整ったら委嘱、業務を開始することとする。

4月

6月

公益社団法人
ふるさと回帰・移住交流推進機構

ニッポン移住・交流ナビ：田舎暮らしの魅力や移住・交流の情報を発信しています。

ホーム よくある質問 JOINについて Google 提供

イチオシ！
注目の特集

地域から
探す

地域の
イベント

地域の
お仕事

地域の
空き家

地域おこし
協力隊

企業の皆様へ

? About
地域おこし協力隊とは？

Search
募集情報を探す

Event
地域おこし協力隊イベント

Interview
隊員インタビュー

Support
相談窓口はこちら

Search 募集情報を探す

絞り込み フリーワード検索 検索

募集カテゴリー 236件 新着順 応募締切日が近い順

茨城県 龍ヶ崎市 更新日:2026/04/01
【茨城県龍ヶ崎市】「スポーツクライミング」で地域を盛り上げたい!!!!
協力隊

長野県 上松町 更新日:2026/03/31
【サウナ×町おこし】森林浴発祥の地をサウナの聖地へ！町の新たな魅力を共に広める仲間を募集します。【長野...
協力隊 おためし

岡山県 吉備中央町 更新日:2026/03/31
(未経験者でもOK！リモート面接可能！令和8年6月から任用予定)吉備中央町の公設塾講師を募集します。【随時募...
NO IMAGE

中国

四国



施設整備の方向性を整理(施設の要件)

スポーツクライミングをより身近に感じてもらうためには、興味を持った市民が気軽に体験できる環境や競技者志向の層が練習でき、大会やイベントに参加できる環境があると、本取組推進の幅が広がる。

	小規模施設	中規模施設	大規模施設
コンセプト	幅広い年代がスポーツクライミングを楽しめる受け皿になる	市内・近隣地区の競技者が集まり、トップ選手まで成長する拠点となる	大規模大会の会場として市外への発信、にぎわいを創出する拠点となる
想定利用シーン	・未体験者に向けた体験会の開催 ・子どもたちが遊び場所の1つとして利用 ・働く世代以上が、運動不足解消のために利用	・市内クラブチームが活動拠点として利用 ・中級者から上級者の選手が、個人練習場所として利用 ・市内、近隣地区レベルのコンペ、イベント会場として利用	・大規模大会の開催場所として利用 ・トップ選手が合宿場所として利用 ・市外、県外の競技者が練習場所として利用
機能サービス要件	・市民が体験しやすい利用条件 ・未経験者が始めやすい体験会が定期的に行われる運営体制 ・学校や地域団体等が体験場所として連携しやすい管理状況	・優秀な指導が受けられる指導体制 ・希望する人が自主的に練習が行える利用条件 ・モチベーションを維持できる機会が定期的に企画開催される運営体制	・大規模大会が開催できる会場仕様 ・大規模大会や合宿の誘致に向けて協力できる運営体制 ・トップ選手が経常的に利用したくなる環境



施設整備の方向性を整理(施設の例示)

小規模施設

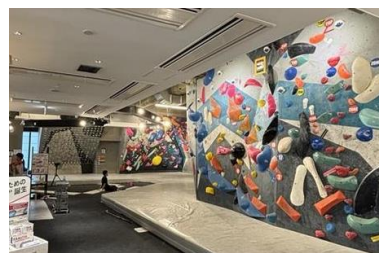


佐賀県, <https://www.pref.saga.lg.jp/chiji/kiji00397606/index.html>, 2026/2/19

- 公園などの屋外に設置し、クライミングの動作を気軽に体験、楽しめるものや主に屋内に設置し、未就学児年代が実際のボルダリングのルートに登って体験できるものが存在する。
- 小規模といっても、中級者以上のクライマーが練習で利用できるもの(写真左下)もあり、ウォール角度可変、ルート設定費なしで主に初期費用のみで導入できるものも存在する。
- 設備規模に応じて数百万円から1千万円程度のコスト感。

中規模施設

D. Boulderingジム(田町店)



ディーボルダリング, <https://www.d-b-c.jp/top/tamachi/>

とくしゅくの杜
スポーツクライミングセンター

銚田市, <https://www.city.hokota.lg.jp/page/page004612.html>

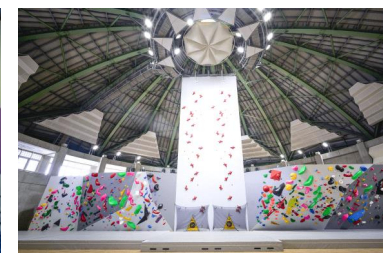
対応種目	- ボルダーが主 - リードは確保スペース、予算等次第で具備
面積	・ 80～300坪程度
ウォール	- ボルダー: H4.0m～4.5m、W30m～50m程度 - リード: H12m～15m、W10m～15m程度
ホールド	1,000～2,000個程度 ※ ボリューム30～50個程度
付帯設備	- 必須 25cm以上の厚さのマット、受付、トイレ、更衣室(ロッカー完備) - 任意 休憩スペース(ストレッチマット、テーブル、椅子、荷物棚)、自動販売機

大規模施設

東金町運動場
スポーツクライミングセンター

葛飾区体育施設, <https://spo.katsushikaweb.net/facility/higashikanamachi-climbing/>, 2025/12

DMGMORIアリーナ



DMGMORIアリーナ, <https://www.dmgmoriarena.com/>, 2025/12

対応種目	・ ボルダー、リード、スピード
面積	・ 600坪以上
ウォール	- ボルダー: H4.5m、W50m以上 - リード: H15m以上、W10m以上 - スピード: H15m、傾斜95度
ホールド	3,000個以上 ※ ボリューム50個以上
付帯設備 (中規模+α)	- 必須 ウォームアップエリア(小さなボルダー壁、キャンパスボード等) - 任意 照明音響設備、トレーニングジム、会議室、控室、モニター



施設整備の方向性を整理(収支シミュレーション)

中規模施設(既存の建物内で整備する際の超概算)

イニシャルコスト

建設費	ホールド等	マット	その他備品等	計
約2,500万円～ (100坪以上想定)	約900万円～ ※ ホールド@7,000円*1,000 ポリウム@50,000円*40	約500万円～ (厚さ25cm以上)	約100万円～	約4,000万円～

ランニングコスト(1か月当たりの収支)

【収入】

利用料金	約13万円～100万円 (公共施設@250円、民間施設@2,000円、月間利用者数500人で算出)
スクール、イベント参加料	約75万円～ (月額1万円で算出、公共施設の場合非直営の場合もあり得る。)
レンタル料	約10万円
大会イベント収入	— (施設の貸し出しが不定期に発生)
計	約23万円～185万円

公共施設で月4,000人、民間施設で月500人の利用で収支ギャップがなくなる。

【支出】

人件費	約60万円 (営業時1～2名配員)
ルート変更費	約20万円
水道光熱水費	約10万円
賃料	約50万円
広告宣伝費	約10万円
消耗品費等	約5万円
減価償却費	約27万円～ (上記超概算初期コストから算出)
計	約182万円～

大規模施設(新たに建築物を整備する際の超概算)

イニシャルコスト

建設費	ホールド等	マット	その他備品等	計
約3億円～ (600坪以上想定)	約2,400万円～ ※ ホールド@7,000円*3,000 ポリウム@50,000円*60	約3,000万円～ (厚さ25cm以上)	約400万円～ ※ オートビレイ機 @500,000円*6	約3億5,800万円～ ※ 上記に加え、土地代・基礎工事費が 建設場所により発生する。

ランニングコスト(1か月当たりの収支)

【収入】

利用料金	約40万円～200万円 (公共施設@400円、民間施設@2,000円、月間利用者数1,000人で算出)
スクール、イベント参加料	約75万円～ (月額1万円で算出、公共施設の場合非直営の場合もあり得る。)
レンタル料	約10万円
大会イベント収入	— (施設の貸し出しが不定期に発生)
計	約100万円～285万円

公共施設で月13,500人、民間施設で月2,700人の利用で収支ギャップがなくなる。

【支出】

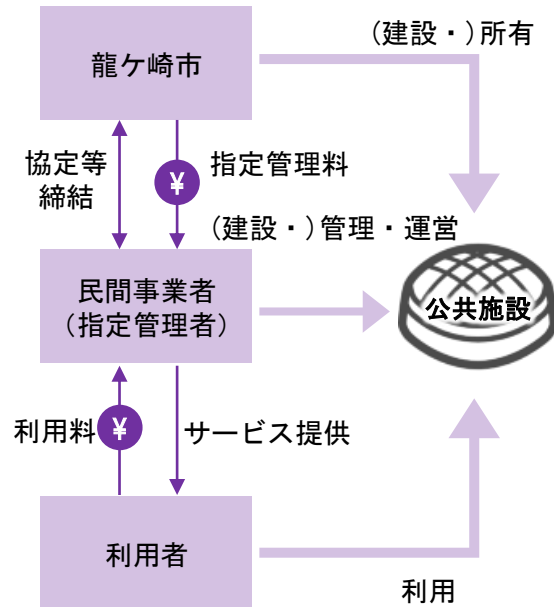
人件費	約250万円 (営業時3～6名配員)
ルート変更費	約40万円
水道光熱水費	約25万円
固定資産税等	約40万円
広告宣伝費	約30万円
消耗品費等	約10万円
減価償却費	約230万円～ (上記超概算初期コストから算出)
計	約625万円～

※ 超概算額は同規模程度の施設運営者のヒアリングをもとに算出、別途ウォール・ホールド・マットなど経年劣化により交換が必要な時期がある。



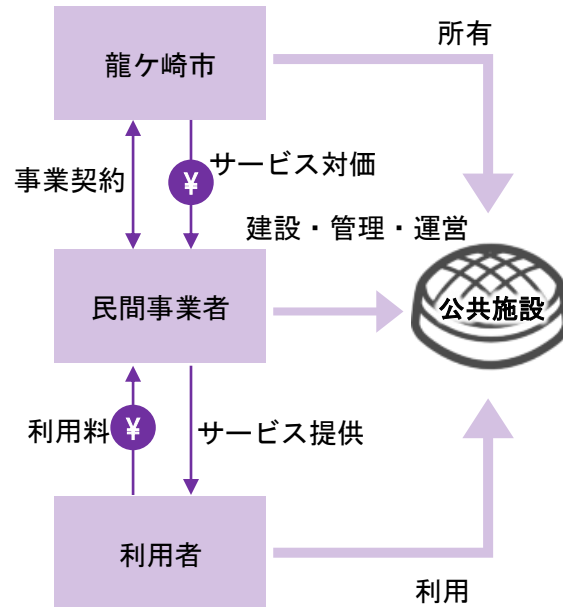
施設整備の方向性を整理(運営手法)

指定管理



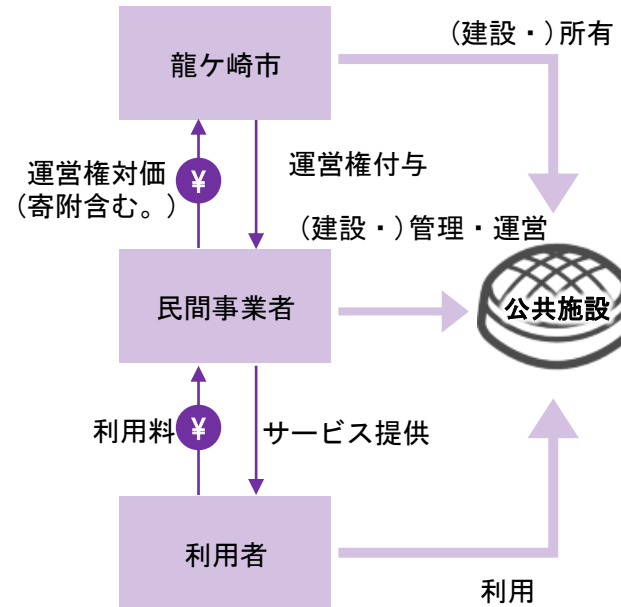
- 自治体が公平に選定した民間事業者が、協定等に沿って公共施設の管理、運営業務を行う制度
- この手法においては、民間事業者が建設した施設を自治体へ寄附する代わりに施設管理者に指定することを求める「負担付寄附」が用いられることもある。

PFI



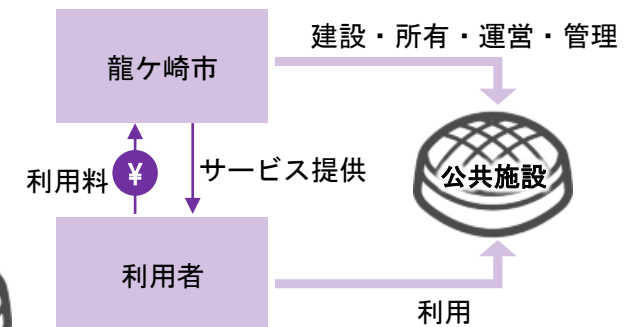
- 自治体が公平に選定した民間事業者に、公共施設の設計、建設、維持管理、運営を一括して委ねる制度
- 建設後に所有権を民間事業者から行政に移転するBOT方式や施設運営後に所有権を移転するBOT方式等が存在
- 国内では基本的にBOT方式が用いられており、サービス対価(建設費や管理、運営費)は事業期間中において平準化させた金額を自治体から民間事業者へ支払

PFI (コンセッション)



- 自治体が公平に選定した民間事業者が、利用料の徴収を行う公共施設の運営権を行政から委ねられ、他手法よりも自由度高く運営できる制度(施設の所有権は自治体)
- 官民の分担には段階があり、修繕、改修費や運営、維持管理費の一部又は全部を自治体が負担する手法も存在

公設公営



- 公共施設を自治体で運営、管理

民設民営



- 民間事業者が自主財源で施設を建設し、運営、管理(自治体は、施設情報の広報などで連携)



施設整備の方向性を整理(運営手法の比較)

		公設公営	指定管理	PFI	PFI(コンセッション)	民設民営
財務面	建設時の市負担	× ・市が全額負担し、単年度の財政負担が膨大 ・公共施設仕様に準拠するため、建設費は高め		○ ・民間が資金調達(後に市が負担)	○ ×(建設を伴わない場合) ・基本的に市が公共施設仕様に準拠して建設	◎ ・市の建設負担はゼロ
	運営中の収益性	× ・市で人件費や修繕費等の運営費が発生 ・費用低減につながる知見が不足	× ・市で指定管理料や大規模修繕費を負担 ・運営時に事業者知見を活かして費用を低減	△ ・建築、運営に係る金額を平準化して市から支払 ・建築から事業者知見を活かして費用を低減	○ ・市負担は基本ゼロ ・運営時に事業者知見を活かして費用を低減	◎ ・市の運営負担はゼロ ・建築から事業者知見を活かして費用を低減
	補助金の活用可能性	◎ ・国の各種補助金を最も活用可能	○ ・建設主体者が行政であれば国の補助金は活用可能、民間であっても、条件を満たすことができれば国の一部補助金を活用可能			× ・公共系の補助金は活用が困難
事業遂行面	運営開始までのスピード感	○ ・工期長期化リスク有 ・運営事業者の選定は不要	△ ・工期長期化リスク有 ・運営事業者の選定に向けた準備が必要	× ・工期の短縮が可能 ・事業者選定から契約までに長期化リスク有	× ・工期の短縮が可能 ・事業者選定から契約までに長期化リスク有	◎ ・意思決定スピード次第で建設から運営開始まで実施可能
	行政の関与のしやすさ	◎ ・市の意向を直接に反映可能	○ ・締結した仕様書や協定に準拠が必要 ・運営方針に関与可	△ ・要求水準を満たしていれば、日常運営への介入は困難	×～△ ・運営への直接的介入は不可で、モニタリングが主	× ・行政の関与なし
	市民へのサービス内容	・利用料は安価 ・指導者は専門性低 ・利用時間や利便性向上への柔軟性低 ・運営以外の事業展開は困難	・利用料は安価 ・指導者は専門性△～○ ・利用時間、利便性向上は見込めるが、ハードに係る整備は△ ・運営以外の事業展開は市の許可必要	・利用料は安価傾向 ・指導者は専門性○ ・利用時間、利便性向上は見込めるが、ハードに係る整備は△ ・運営以外の事業展開は契約次第で可	・利用料は収益性担保のため、比較的高 ・トップ指導者を招くインセンティブあり ・利用時間、利便性向上への柔軟性○ ・多様に事業を展開可	・利用料は収益性担保のため比較的高 ・トップ指導者を招くインセンティブあり ・利用時間、利便性向上への柔軟性◎ ・多様に事業を展開可



施設整備の方向性を整理(方向性の考え方①)

本市では、小規模施設といえる設備が一部ある一方で、中級者以上の層を取り込む設備や施設は存在していないのが現状である。

	小規模施設	中規模施設	大規模施設
現状	・ニューライフアリーナ龍ヶ崎サブアリーナや森林公園に常設のウォールが存在 ・3つの小学校の肋木に簡易クライミングウォールを設置したほか、イベントなどで利用可能な組立式の体験ウォールを保有	・つくば市などの近隣市で車で30分程度のエリアに民間ジムがいくつか存在するが、市内には不存在	・県内では、鉾田市に「とくしゅくの杜」スポーツクライミングセンターが存在 ・関東圏では、代表選手が練習する規模の施設として、葛飾区に東金町運動場スポーツクライミングセンターが存在 ※ どちらも公共施設としては大きいが中規模施設レベル
現状を踏まえた整備の考え方	・スポーツクライミングに興味関心を持ってもらうための幼少期からクライミングの動作を体験できる環境づくり ・ニューライフアリーナ龍ヶ崎のスクール運営環境の拡充 ・中級者以上も利用する小規模設備の整備	・定期的に体験や練習ができる環境の整備 ・指導者も備えた地域クラブの創設 ・大規模大会レベルの規模には至らないものの、練習の成果が発揮できる機会の確保	・上級者やトップレベルの選手が練習できる競技環境の整備 ・ボルダー、リード、スピードの設備の整備 ・まちづくりの拠点となる複合的機能を有し、市外への龍ヶ崎市のPRにつながる大規模大会を開催することができる環境の整備
整備を検討するにあたっての方向性	・保育所、幼稚園などへの簡易ウォール設置 ・ニューライフアリーナ龍ヶ崎サブアリーナのウォールの初心者だけでなく初中級者の利用増につながる設備の整備 ・中級者以上の小規模設備(例:キルターボードなど)の整備	・財源を確保した上での施設整備 ・民間ジムなどの誘致	・県や民間企業を巻き込んだ施設整備

市内での体験普及や競技者志向のクライマーを取り込むためには、小規模施設だけではなく中規模以上の施設の整備が求められる。また、大規模施設にあっては、まちづくりへの波及効果も想定できる。しかしながら、機運醸成度合いや財源確保の確実性、運営手法の検討が必須である。



施設整備の方向性を整理(方向性の考え方②)

施設や設備を整備する場合、各施設の規模に応じた目的や持続可能な運営の担保、官民の連携度合を考慮して手法を検討する必要がある。

	小規模施設	中規模施設	大規模施設
整備概要	・ 保育所、幼稚園などの設備環境の整備 ・ ニューライフアリーナ龍ヶ崎サブアリーナの設備環境の拡充	・ 定期的に体験や練習ができる規模の環境整備 例: 80坪以上、ボルダー壁を主として高さ4.0m~4.5m、壁面長30m~50m程度の施設	・ 上級者やトップレベルの選手が練習できる規模の環境整備 例: 600坪以上、ボルダー、リード、スピードに対応でき、国際大会又は国内の大規模大会が開催できる施設
収支に関するポイント	・ ニューライフアリーナ龍ヶ崎のサブアリーナの環境拡充に伴う利用料金の設定については、公共施設であること考慮した上で検討	・ 数千万円単位の初期投資が必要 ・ 継続的な運営には定期的な利用者が必要で、立地面を考慮すると、利用者数が想定を下回る可能性が懸念 ・ 民間事業者が個人利用やスクール事業を運用し、収益性を担保	・ 数億円単位の初期投資が必要 ・ 行政単独又は民間事業者単独の施工は困難 ・ 個人利用、一般的なスクール事業だけでは、収支ギャップが生まれる可能性が高く、民間のノウハウを活用した収入増やコストカットにつながる手法が必要
整備・運営手法の考え方	【整備】 ・ 行政主体で実施 【運営】 ・ 行政や指定管理者、施設管理者にて対応	【整備】 ・ 大規模大会等で用いた設備を活用して市が整備、民間事業者が整備して市に負担付寄附をするといった手法で、市が所有者になる形で設立(国補助金等を想定) ・ 民間事業者が所有者になる形で設立、誘致(行政支援を想定) 【運営】 ・ 民間事業者の活用が必須だが、民間事業者の進出促進のため、行政支援が必要	



官民連携調整会議



教育・学習



プロモーション



産業振興



にぎわい創出



環境整備



KPIの進捗状況



令和8年度の取組



スポーツクライミングが地域の魅力となり、
誇りと活力にあふれるまち龍ヶ崎へ

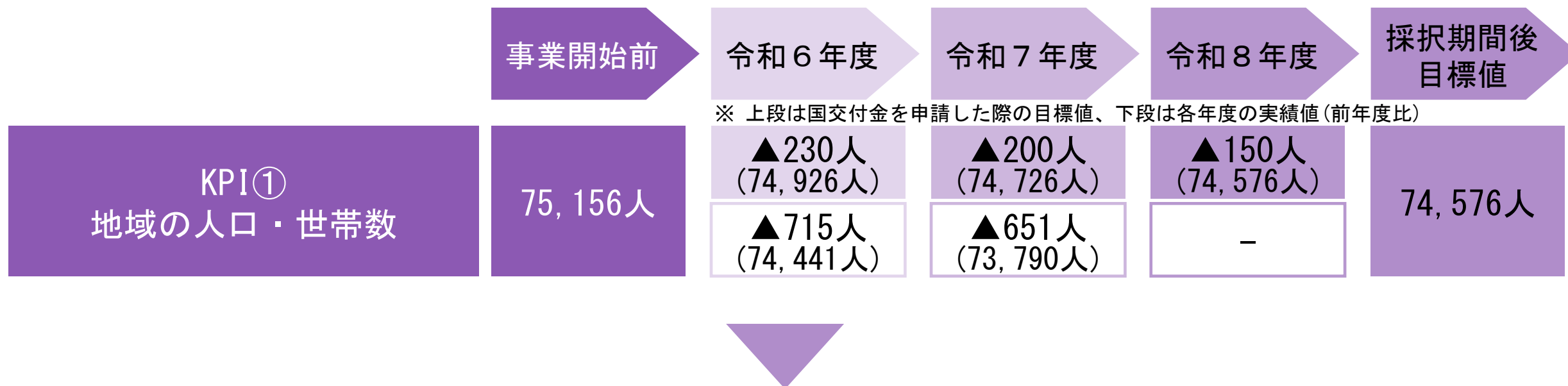


KPIの目標値と実績値

	事業開始前	令和6年度	令和7年度	令和8年度	採択期間後 目標値
※ 上段は国交付金を申請した際の目標値、下段は各年度の実績値(前年度比)					
KPI① 地域の人口・世帯数	75,156人	▲230人 (74,926人)	▲200人 (74,726人)	▲150人 (74,576人)	74,576人
		▲715人 (74,441人)	▲651人 (73,790人)	—	
KPI② スポーツイベントの参加者数	5,141人	+250人 (5,391人)	+500人 (5,891人)	+750人 (6,641人)	6,641人
		+1,670人 (6,811人)	▲618人 (6,193人)	—	
KPI③ たつのこアリーナボルダリングウォール利用者数	2,862人	+500人 (3,362人)	+200人 (3,562人)	+200人 (3,762人)	3,762人
		▲283人 (2,579人)	+551人 (3,130人)	—	
KPI④ 事業に参画する団体数	0団体	+10団体 (10団体)	+10団体 (20団体)	+10団体 (30団体)	30団体
		+15団体 (15団体)	+12団体 (27団体)	—	



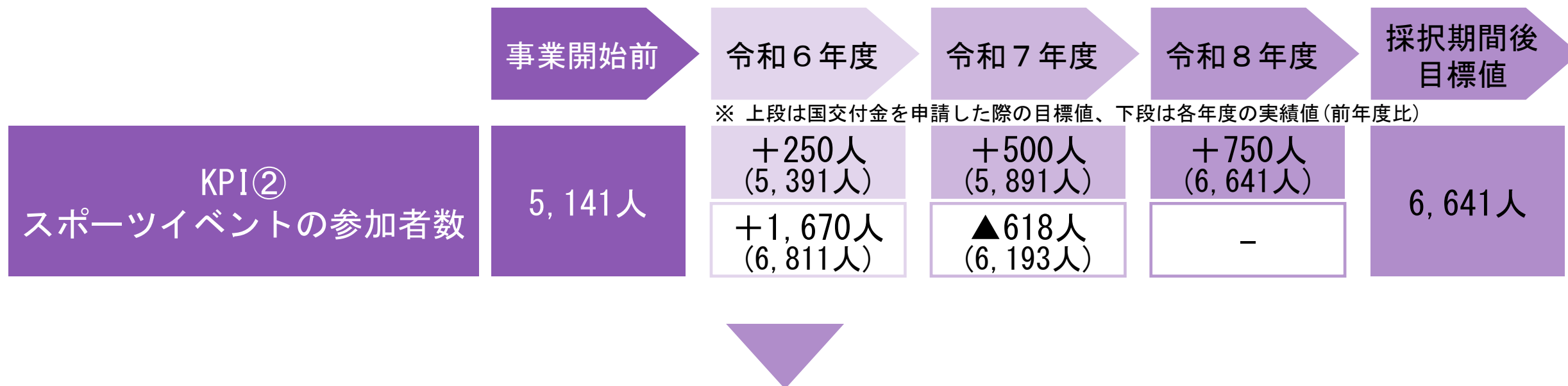
KPI①



事業開始前は、転入超過による社会増が自然減を補てんしていたため300人前後の減少幅であったが、現在は社会動態が均衡しており、自然減の数が人口動態にそのまま反映する状態となっている。昨年度と比較すると減少幅は微減したものの、昨年度に引き続きKPIの目標値を上回る減少幅で推移する結果となっている。



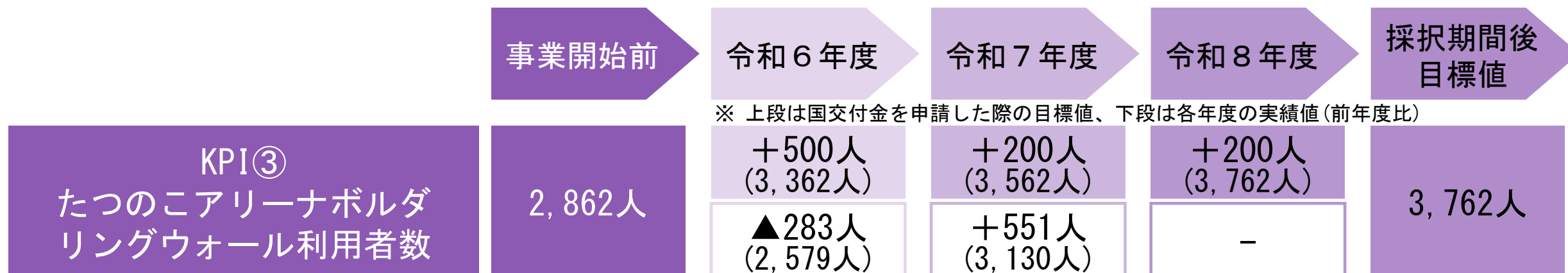
KPI②



プロスポーツ連携事業、AKIYO's DREAM with RYUGASAKI、リレーマラソン大会といった当課主要事業の参加者数が伸びてきていることにより、昨年度に引き続きKPIの目標値に達しているものの、市民スポーツ・レクリエーションまつり2025の当日が雨天で、参加者数が例年より減ったため、昨年度の実績値よりは減少する結果となった。



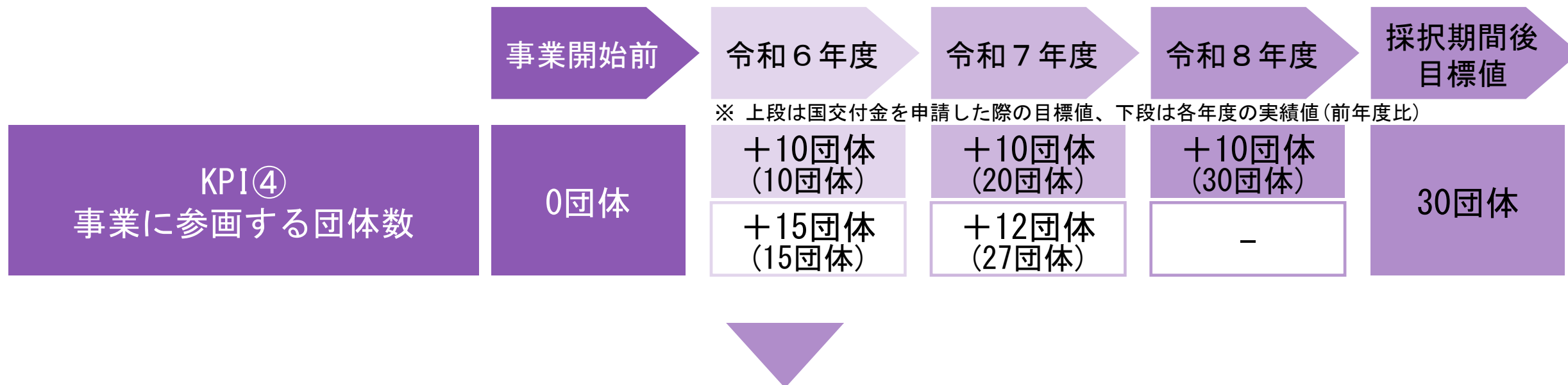
KPI③



利用者数として集計している個人利用、スクール利用、体験会利用において昨年度より各項目増加しており、特に体験会については、トップクライマーによる体験会やAKIYO's DREAM with RYUGASAKIの大会環境を生かしたイベントの開催により利用者数が伸びたため、昨年度や事業開始前の実績値を上回ったが、KPIの目標値には達していない。



KPI④



多様な主体と連携し、スポーツ分野のみならず他分野へも波及効果をもたらすことを目指し、基本構想策定時に設置した審議会に参画いただいた団体など本市の行政運営に日頃より関わりのある企業で構成した官民連携調整会議の設置や事業者向けワークショップの開催により、昨年度に引き続きKPIの目標値に達している。



官民連携調整会議



教育・学習



プロモーション



産業振興



にぎわい創出



環境整備



KPIの進捗状況



令和8年度の取組





基本構想におけるロードマップ



令和7年度【市内浸透段階】

- ・市内への普及に向けて、体験機会の増加や、象徴的な大会が実現されている。
- ・市内の関係者とも協力体制が構築されており、連携したプロモーションがなされている。
- ・各アクションについて実現性が精査され、アクションの実現に向けた計画が整理されている。
- ・環境整備に向けた要件の整理・誘致に向けた活動を検討している。

令和8年度【機運上昇段階】

- ・スポーツクライミングのまちとして、大規模大会が実施されており、多くの関係者がかかわる注カイベントとなっている。
- ・市内における認知度は高まっており、応援する機運が生まれている。
- ・市外のプロモーションにもスポーツクライミングが活用されている。
- ・スポーツクライミングをきっかけとした移住者が生まれている。

令和9年度以降【運用段階】

- ・全国から「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」として認知され、住民がスポーツクライミングに親しみや誇りを持ち、スポーツクライミングを活用した自発的な取組が広がっている。

テーマ

アクション

教育・学習

学校連携
体験会開催

学校連携協議・調整

体験会企画検討

体験会開催

一部連携

体験会の開催数・対象年代の拡大

連携拡充

プロモーション

市内外向けプロモーション

方針検討

コンテンツ作成・発信

コンテンツ作成・発信

産業振興

地域の名物等との連携

大会と連携

大会と連携

大会と連携

連携・制度検討

連携・制度運用

にぎわい創出

大会誘致・開催

招致活動

企画・開催

招致活動

企画・開催

環境整備

環境整備
人材確保
資金調達

施設・拠点方針検討

民間施設誘致検討・小規模設備整備

地域おこし協力隊の募集・受入れ

事業推進主体の検討

制度検討・企業版ふるさと納税確保

G C F・ふるさと納税・企業版ふるさと納税確保

競技者支援

アスリート支援

方針検討

制度運用



令和8年度に実施する取組



官民連携調整会議

令和6年度に立ち上げた官民が連携した会議体を引き続き運営し、各テーマ・アクションの深化や事業自走化に向けた検討を行う。



教育・学習

学校授業への試行的導入や民間ジム体験会を開催するなど、新たな体験機会を創出し、学校授業の継続的な実施手法を調整する。



プロモーション

既存コンテンツの有効活用や市民・事業者による発信機会創出につながるコンテンツを提供し、取組関心層の応援・拡散を促進する。



産業振興

スポーツクライミングにちなんだサービス・商品開発の促進や事業者の課題把握と支援ニーズをもとに開発支援を検討・展開する。



にぎわい創出

全国から競技者が訪れ、この事業を象徴するユースクライミング大会を開催するとともに、継続開催に向けた仕組みの構築を図る。



環境整備

地域おこし協力隊の確保、資金調達の実施、小規模施設の整備、民間施設の誘致検討を行い、自走化に向けた展開を図る。



競技者支援

支援ニーズ調査を実施し、競技者の属性に応じた効果的な支援内容や支援提供方法などの検討を行い、支援制度案を整理する。



令和8年度の想定スケジュール



官民連携調整会議



教育・学習



プロモーション



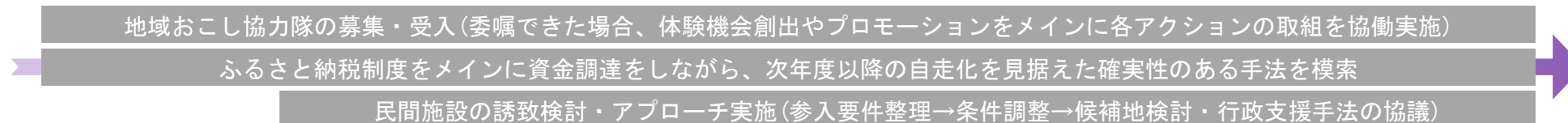
産業振興



にぎわい創出



環境整備



競技者支援





スポーツクライミングが地域の魅力となり、
誇りと活力にあふれるまち龍ヶ崎へ

報告は、以上となります。

